令和元年度大学コンソーシアム沖縄 運営委員会（第１回）議事概要

○日　時：令和元年６月１１日（火）１５：００～１６：３０
○場　所：琉球大学　研究者交流施設・５０周年記念館　１階　ラウンジ
○出席者：新田 早苗 事務局長（琉球大学総合企画戦略部長）、金城 徹 委員（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課長）、中田 竜次 委員（沖縄キリスト教学院大学・短期大学総務課長）、田代 真紀 委員（沖縄大学総務課長）、高宮城 実則 委員（沖縄女子短期大学総務企画課長）、比嘉 美昭 委員（沖縄国際大学事務局総務課長）、渡久地 寛 委員（沖縄県立芸術大学総務課長）、砂川 一弥 委員（名桜大学総務課長）、仲里 勉 委員（沖縄県立看護大学総務課長）、西原 盛浩課長補佐 代理出席（沖縄工業高等専門学校総務課）、長濱　為一 委員（沖縄科学技術大学院大学技術開発ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ R&D 担当審議役）
○欠席者： 鈴木極（沖縄工業高等専門学校学生課長）
○陪席者：大城 光雄（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課課長代理兼企画係長）、金城 まなみ（同課 企画係主任）、島袋 健（同課 課員）

【要旨】

議題に先立ち、令和元年度最初の運営委員会で委員の変更もあることから、自己紹介が行われた。

引き続き、事務局長から大学大学コンソーシアム沖縄の設立からこれまでの取組み状況等の次のとおり概要説明があった。

・大学コンソーシアム沖縄は、立ち上げから５年目を迎える。最初立ち上がった時には、趣旨を理解、賛同を頂いて、大学の構成員が分かって作ったとういう形では無かった。いろんな取組みを始めるところから、メンバーシップを確立していこうというものであった。
・平成３０年度の運営委員会の中では、大学コンソーシアム沖縄の理解が進んできたものの、運営委員会委員からは、課題として大学に持ち帰った時に学長をはじめ一部の方々しか大学コンソーシアム沖縄について認識がない。いろいろな取組みがお願いされてきて、先生方に協力を依頼する時にも、非常にやりづらいものがあるという意見があった。
・会費は OIST、琉大、名桜が各２０万、それ以外の大学が１０万ずつで年間１３０万円しか事務局経費がなく、実質的な事務局は置けない状況にある。
・ほとんどの取組みが外部資金の獲得という形でこなしてきた。
・取組みは進んでいくけれども、参加感がないということで、昨年度の社員総会ではコンソーシアム沖縄の再定義、事務局の組織整備ということが議論され、取組む時には、運営委員会の中で一つ一つの課題を議論しながら、それぞれの大学の成り立ち、予算の動向、ガバナンスの在り方の違いというところも考慮しながら、出来るところから、無理のない範囲できっちりやっていくことなった。一気呵成に組織体として行動していくには時間がかかっているのが現状である。

議題（１）大学コンソーシアム沖縄第８回社員総会について

○新田事務局長から、資料１に基づき、６月１８日開催予定の大学コンソーシアム沖縄第８回社員総会議事次第（案）について説明があった。

○引き続き、新田事務局長から、社員総会の議題である大学コンソーシアム沖縄の規程整備（案）について資料２に基づき、説明があった。

・審議の結果、資料２については、委員等から指摘のあった次の３点について齟齬が生じないよう琉球大学法規担当に関連法規等との整合性の確認・調整を行った上で、社員総会開催前までに各運営委員へ確認結果をメールで送付し、確認頂いた上で社員総会に諮ることが承認された。

①組織規則（案）の第３条で代表理事と副代表理事が執行機関となっており、大学コンソーシアム沖縄の執行機関で意見が競合した場合にどちらの意見が優先されるのか。この規則の中では機関の意思決定権限が見えない。

②個人情報保護規程（案）の第13条の「委任」とあるところは、権限の関係もあり「代理させることができる」ではないか。

③個人情報保護規程（案）の第12条の「保有個人データの利用停止等」について、琉球大学法規担当から「利用停止」については、別立ての条項が良いのではないかという指摘もあり、併せて確認・調整する。

○引き続き、資料３「２０１８年度（平成３０年度）」、資料４「決算報告書」、資料５「２０１９年度（令和元年度）事業計画（案）について」、資料６「令和元年度予算書（案）」について、事務局から説明があった。

また、資料４「決算報告書」について、金城運営委員から平成２９年度に事業が終了した全国研究フォーラムの赤字の部分については、この事業自体のマイナスを消す精算の税務処理を行うには社員総会できちんと諮る必要があること、また平成３０年度で終了する知的・産業クラスター事業についても精算処理が出るので、同様に社員総会で諮り、精算の処理の承認を得たいとの補足説明があった。

・審議の結果、資料３～資料６については、提案どおり社員総会へ諮ることが承認された。

（主な質問事項）

・ボランティアセンターへの寄附への使途はどうなっているのか。

→学生への謝金ということで限定されている。その目的で寄附を頂いている。ＪＴＡの航空券の寄附があり、それで学生の離島派遣に充てている。

・仮にこの事業が終わって、寄附が余ったらどうなるのか。

→寄附としては、今のところ寄附の趣旨を変えるかどうかについては、全寄附者にお話を聞いてという形にならざるを得ない。毎年支援を頂いているので、お話はできると思う。

議題（２）公開講座（各大学持ち回り）について

・事務局から、資料７に基づき、前回の運営委員会での公開講座に関する決定事項である「大学コンソーシアム沖縄」の冠をかぶせたチラシフォーマット及び実施報告書様式の案の提示と説明があった。

・審議の結果、提案どおり承認された。

（主な質問事項）

・各大学が先生方に募った上で、この公開講座を開催するのか。

→元々、各大学は公開講座を実施しており、実施しているものの中から大学コンソーシアムという冠をつけて公開するにことに対して同意を得たもので、実施しているものを共同にすると先生方を集めることが非常に難しい。それよりは、コンソーシアムの冠をかぶせてやることでもっといろんな方を集められるのではないかというものである。

議題（３）世界ウチナーンチュ学生サミットについて

〇名桜大学の砂川運営委員から配付資料の「第５回世界ウチナーンチュ学生サミット実行委員募集」及び第５回世界ウチナーンチュ学生サミットについて説明があった。

・審議の結果、名桜大学の方から「世界ウチナーンチュ学生サミット」について周知広報の依頼が届いたら、学生や先生方への周知に協力することが確認された。

議題（４）ツーリズム ＥＸＰＯ ジャパン２０２０（沖縄）開催応援団（仮称）への参画について

〇琉球大学の金城運営委員から資料８に基づき、「ツーリズム ＥＸＰＯ ジャパン２０２０（沖縄）開催応援団（仮称)」の説明があった。

なお、本件については、事前に事務局から各運営委員に対して開催応援団（仮称）への参画について意見照会を行ったが、特に意見は無かったものである。

・審議の結果、開催応援団（仮称）の構成員とされている団体のほとんどが参画とする予定であること、参画することにより大学コンソーシアムに特段の役割分担がないこと、６月 17 日に本件に関する連絡協議会があるため早急な回答を求められていることを踏まえ、「参画する」ということで手続きを進めることが承認された。

議題（５）その他

①琉球大学の鈴木国際連携推進課長から配付資料の琉球大学・ＪＩＣＡ沖縄 合同イベント「アフリカをもっと知ろう」セミナーについて説明があった。対象者が県内大学生、大学院生、一般市民ということで、各大学への周知依頼があった。

②全体を通じての意見等

・委員から全国の他コンソーシアムの状況確認、本コンソーシアムの持続可能な活動のための予算確保の提案、今後の具体的な活動についての検討依頼等があった。

（以上）